

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業 知っておきたい話」 119 (2面)
- ・酪農家戸数減少に危機感 (3面)
- ・事故「自分事」で防止を 春の農作業安全確認運動スタート (4面)
- ・果樹凍霜害危険度推定シート公開 (5面)
- ・牛乳の異味異臭対策を発見 (6面)
- ・乳去勢 堆肥化過程で温室効果ガス半減 (7面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
 TEL 03-6268-9995
 FAX 03-6268-9996
 ホームページ http://www.kaitakusya.or.jp
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

畜産・酪農の窮状を訴える

農水省との意見交換会

連盟

全日本開拓者連盟は2月15日、農水省との「畜産・酪農の振興に関する意見交換会」をWeb方式で開催した。同省関係各課からの22年度補正・23年度当初予算の説明に対して、開拓組織の代表者からは畜産・酪農が置かれている厳しい現状を説明し、さらなる支援対策の必要性を訴えた。

今年も昨年同様、Web会議システムでの開催となった(写真)。

開拓組織からは連盟14会員組織の代表、全開連・全国開拓振興協会役員ら30名が出席。

農水省からは、畜産局、農産局、消費・安全局、経営局各課の担当官13名が出席した。

昨年6月に連盟が同省に提出した「23年度畜産・酪農政策並びに予算に関する要請」の重要項目(国内畜産・酪農業の)



Web方式での会議の様子

他関連対策について様々な政策を行う。これらが生産現場に活用できるよう、忌憚のない意見を伺いたい」と述べた。

その後、同省各課から重要項目に関する22年度補正・23年度当初予算、23年度畜産物価格関連対策の説明があった。

開拓組織の代表からは、意見や要望・質問が相次いだ。

酪農経営改善緊急支援事業(生乳の需給ギャップを改善するため、一定期間、早期に乳用経産牛をリタイアさせ生産抑制した場合に奨励金を交付する事業)について反対の意見があり、「経費高騰の厳しい経営状態で、これ以上減産して収入を減らすわけにはいかな

い。酪農は長年の積み重ねで経営を培ってきた。簡単に減産しても、いざ増産するのは容易ではない」として脱脂粉乳等の過剰在庫を減らす対策を求めた。

さらに、これまでにない畜産の危機的状況を、

同水準の転換で需給均衡

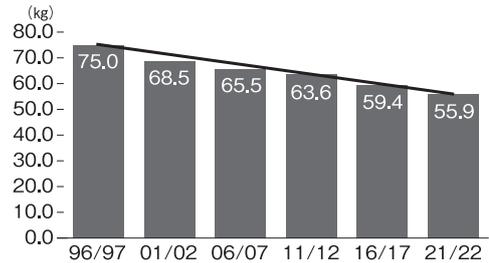
23/24年主食米需給見通し

農水省は3月1日、食料・農業・農村政策審議会食糧部会を開き、主食用米の需給見通しなどの基本方針(案)を示し、了承された。

23年6月末の民間在庫量	a	191~197 (218)
23年度主食用米等生産量	b	669 (670)
23/24年主食用米等供給量	c = a + b	860~866 (888)
23/24年主食用米等需要量	d	680 (691~697)
24年6月末の民間在庫量	e = c - d	180~186 (191~197)

※()内は22/23年の見通し (農水省の資料から)

主食用米1人当たり年間消費量の推移(kg)



22/23年の年間消費量を55.4kgと推計し、各年の日本の人口の推計値を乗じて需給見通しを算出した。24年を54.8kgと推計し、23/24年の主食用米等の供給量の合計の見通しは、23年6月末の民間在庫量が191万トの場合、860万ト、197万トの場合、866万トとなる。国が行う備蓄については、米穀の生産量の減少

小麦需要は回復基調

23年度麦の需給見通し

農水省は3月1日に開いた食料・農業・農村政策審議会食糧部会で、23年度の「麦の需給に関する見通し(案)」を示し、了承された。

麦の自給率は低く、国内産で満たせない需要分については国家貿易により外国産を計画的に輸入する。同省は毎年、麦の需給及び価格の安定を図るため、同見通しを策定している。

▼小麦

日本の人口は近年減少局面を迎えているものの、食糧用小麦の1人当たりの年間消費量は1974年以降、おおむね33トで安定的に推移している。

外国産の輸入量(政府からの販売数量)は、総需要量から国内産流通量(94万トの見通し)及び米粉用国内産米流通量(5万トの見通し)を差し引いた需要量に、備蓄量の増減分を加えた46.4万トと見通した。

▼大麦・はだか麦

食糧用大麦及びはだか麦の総需要量は、主食用いた18万トと見通した。

脱脂粉乳以外で入札

乳製品輸入枠は変わらず

野村哲郎農相は2月24日の会見で、今年度の乳製品の輸入枠の中で、すでに在庫が積み上がっている脱脂粉乳の入札を行わず、他の乳製品に振り分ける方針を示した。

WTQ(世界貿易機関)に、バターやホエイ、バターオイルなど、他の乳製品に振り分けて入札を行うこととなった。乳製品の輸入枠は、年度1月末で12万7千ト落

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

